

2024年7月1日  
83号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 渡辺明宏  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## ごあいさつ — 地域を護る病院として —



院長 吉井 慎一

2024年も早いもので6ヶ月が経過しました。今年も猛暑が予測されており、熱中症対策だけでなく、夏場の体調管理には十分お気を

つけください。

2024年度は「医師の働き方改革」の開始、さらに2年ごとの診療報酬改定も行われ、多くの病院がその対策に追われています。今回は医療・介護の同時改定であり、病院だけでなく、介護施設や診療所にもその機能を十分に果たす方向への改定が行われています。病院にも、どのような入院機能を持つか、高度急性期と急性期を中心としていくのか、回復期病床と地域包括（ケア・医療）病棟への移行を図るのが求められています。茨城県の病院会議などでは、200床以上の公立・公的病院が中心ですが、実際の医療は多くの中小規模病院によって支えられています。以前より多くの病院が医師・看護師不足に陥っており、ここに「医師の働き方改革」で夜間診療する医師がさらに不足する事態が生じています。茨城県の医師不足は全国ワースト5位で、県の努力もあって茨城県で研修する若い医師は増加していますが、その多くは大病院に所属しており、もともと医師数の

多い医療圏以外の地域は改善していません。

前回は述べたように、膨れ上がる医療費の抑制への動きから、病院数（特に急性期病院）の減少は防げず、地域の急性期病床数も必ず減少します。特に高齢者医療に関しては、調子の悪いときはいつでも入院できる国ではなくなっていくことに国民の覚悟も必要です。ここに、かかりつけ診療所や訪問診療の重要性があり、介護施設におけるお看取りを含めたある程度の医療行為が必要な理由があります。

これは救急医療現場でのマンパワー不足も同様です。近年、救急車出動回数は顕著に増加しています。救急搬送困難例も増加傾向で、助けられる救急患者が適切な医療を受けられないことも生じ得ます。救急搬送されながら入院に至らなかった場合、特別な場合を除き、患者さんから選定療養費（200床以上の病院で紹介状なしに病院を受診した患者さんから病院が徴収するもの）として、1件（人）につき7,700円を徴収する案が検討されています。並行して夜間に病院以外で相談できるシステムの充実も必要となり、自治体とともに早急な対策が必要となります。

当院は今後も医師および医療従事者の確保に努め、地域の医療・介護施設と協力し、地域の皆様を護る病院としてその役割を果たしていく所存です。皆様のご理解、ご協力をこれまで以上によりしくお願いします。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

7月		8月		9月		10月																									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
	1	2	3	4	5	⑥					1	2	③		1	2	3	4	5	6	⑦					1	2	3	4	⑤	
7	⑦	8	9	10	11	12	⑬	8	④	5	6	7	8	9	⑩	9	⑧	9	10	11	12	13	⑭	10	⑥	7	8	9	10	11	⑫
月	⑭	⑮	16	17	18	19	⑳	月	⑪	⑫	⑬	⑭	15	16	⑰	月	⑮	⑯	17	18	19	20	㉑	月	⑬	⑭	15	16	17	18	⑰
	㉒	23	24	25	26	㉔		⑱	20	21	22	23	㉒		㉒	㉓	24	25	26	27	㉔		㉒	21	22	23	24	25	㉔		
	㉕	29	30	31		㉕	26	27	28	29	30	㉖		㉕	30		㉕	28	29	30	31										

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



## 呼吸器内科



呼吸器内科医師

右から肥田憲人医師、武石岳大医師、中泉太佑医師

呼吸器内科は、気管、気管支、肺などの疾患に対する検査や治療を行っております。

症状としては、咳がでる、痰がでる、息切れがする、胸が痛い、いびきなどの症状を診療しています。主な疾患としては、肺癌や中皮腫などの悪性腫瘍、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）症などの炎症性/アレルギー性疾患、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症、胸膜炎、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群などがあります。これら疾患に対して気管支鏡検査、胸腔鏡検査、がんパネル検査、終夜睡眠ポリソムノグラフィー（PSG）などを導入しております。特に肺癌と喘息については各バイオマーカーや遺伝子変異などに応じた個別の診療を行っております。

治療についても癌への化学療法(殺細胞性抗がん剤、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬)や放射線治療、喘息への生物学的製剤などを行っております。

現在、常勤2名、専攻医1名で診療を行っており、今後もできる限りの医療を提供して参ります。咯血、精神疾患、透析患者、緊急疾患などについては近隣病院へ受診をお願いすることもございますが、上記のような症状などで気になることがございましたらいつでもご相談頂ければ幸いです。



気管支鏡検査の様子

## 事務局総務係

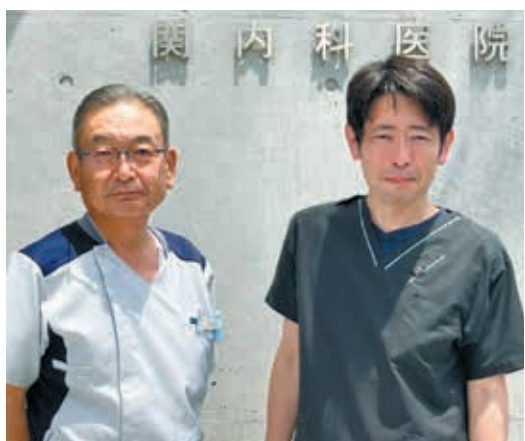
総務係は8名で構成され、人事・教育・労務・安全・庶務・福利・文書・医局運営など幅広い業務に対応しています。その他に警備・保育園・公用車運転の業務を委託しています。すべての業務に共通するのは「職員や病院運営をサポートする業務」であることです。「地域を護る病院」として職員が安心安全な環境で患者さんに医療が提供できるよう、総務係が縁の下の力持ちとしてサポートしています。



事務局総務係スタッフ

## 地域の先生紹介

### 関内科医院



関 雅彦院長、南波 亮一副院長

〈関院長〉

当院は父が昭和38年に開院、洗練された建物のデザインにこだわり、平成19年に現在地に移転、長きにわたり地域の皆様と共に歩み、スタッフ一同向上心を持って努力して参りました。また、平成29年に南波先生を迎え、幅広い診療提供ができるようになりました。

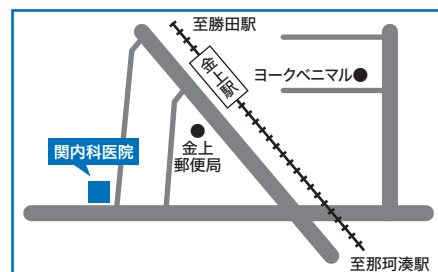
診療対象は、内科全般、主に心不全、狭心症、不整脈などの循環器疾患と高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病と小児科です。来院が難しくなった患者さんには在宅診療を行っており、市内ではまだ少ない在宅支援診療所となっております。かかりつけ医として対応

困難となった際には、ひたちなか総合病院にお世話になっております。これからもよろしく願いいたします。

〈南波副院長〉

関先生と外来を分担して担当していますが、呼吸器を専門としているので、呼吸器専門治療が必要な患者さんは私が対応するようにしております。

今後もひたちなか総合病院の皆様と連携して、ひたちなか市の呼吸器医療を支えていきたいと思っております。よろしく願いいたします。



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進室へ

8:15~16:30 (月曜日~金曜日)

TEL 029-354-5202 (直通)

FAX 029-354-5220 (直通)

## オーラルフレイルを予防しよう

リハビリテーション科 理学療法士 佐藤 誠  
簡単トレーニング①

オーラルフレイルとは、嚙んだり飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えることを指し、早期の重要な老化のサインとされています。口腔機能低下（オーラルフレイル）は、低栄養を引き起こし、フレイルつまり心身機能の低下に結びつくことがあります。

### 〈オーラルフレイル予防〉

- 1日1回嚙み応えのある食品をとりましょう。
- 毎日欠かさず歯ブラシをはじめとするセルフケアを行いましょう。
- 気になる方は歯科医院でプロフェッショナルケアを受けましょう。
- 「嚙む力」「飲み込む力」に欠かせない筋力を強化しましょう。
- 自宅でできる簡単トレーニングをしましょう。

オーラルフレイルを予防して、おいしく食べ、ご自宅で元気に過ごしましょう。



パ・パ・パ・パ・パ  
タ・タ・タ・タ・タ  
カ・カ・カ・カ・カ  
ラ・ラ・ラ・ラ・ラ

### 【パタカラ発声】

各5～10回、はっきり発声する

### 簡単トレーニング②



顎を強く  
引き、  
自分の指で  
邪魔をする

### 【顎引き抵抗運動】

5秒程度保持し、3～5回繰り返す

## 歯の健康を守ろう

30歳以上の約30%が歯周病にかかっていると言われています。大切なのは予防、診断、そして適切な治療です。

### 〈歯周病とは？〉

細菌の感染によって引き起こされる炎症性疾患で、歯肉や歯を支える骨などが溶けてしまう病気です。

歯と歯肉の境目（歯肉溝）の清掃が行き届かないとそこに多くの細菌が停滞し、歯肉の辺縁が炎症を起こして赤くなったり腫れたりしますがほとんどの場合痛みはありません。

歯周病の原因となるのは歯垢と呼ばれる細菌です。歯垢は時間と共に量が多くなり、酸素が少ない状態になると歯垢の中で酸素を嫌う嫌気性菌が多くなります。嫌気性菌が歯肉に攻撃を仕掛けて身体に侵入しようとする為、身体は侵入を抑えようと攻撃します。これが歯周病の始まりで、歯肉からの出血・発赤・腫脹など炎症の症状です。炎症によって出てくる毒性物質が歯肉の血管から全身に入り、様々な病気を引き起こしたり悪化させる原因となります。

健診センター 遠藤 尚子

炎症性物質が血糖を下げるインスリンの働きを悪くさせたり（糖尿病）・肥満・動脈硬化（心筋梗塞・脳梗塞）にも関与しています。また、歯周病菌の中には誤嚥により気管支から肺にたどり着くものもあり、誤嚥性肺炎の原因となっています。

### 〈全身の健康のために〉

毎日の食生活を含めた生活習慣を見直し、歯周病を予防することが生活習慣病を予防する事にもつながります。半年に1度は歯科を受診し、検診と口腔ケアを受けるようにしましょう。

### ◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆

診療科	氏名	異動日
総合内科	古川 琢斗	退職（2024. 6. 30）
神経内科	桐花 玲奈	退職（2024. 6. 30）
小児科	児玉 應浩	採用（2024. 7. 1）
臨床研修医	多喜田 知史	採用（2024. 5. 1）
	田村 憲伸	採用（2024. 5. 1）
	山口 航平	退職（2024. 6. 30）